平成30年度学校評価書

学校名	兵庫教育大学附属小学校

1　学校教育目標

人間として生きぬく力の育成
・ねばり強く問いつづけ、よりよいものを創り出す子
・はげまし、支え合い、共に伸びる子
・強い心とたくましい体をつくる子

2　本年度の重点目標

・子どもたちの学力保障（学習時間）と基本的生活習慣等の定着
・地域や保護者のニーズ及び多様な個性を持った子どもたちへの対応
・勤務時間の適性化（タイムマネジメント）と教職員の服務規律の確保
・附属文化の継承と再構築（研究面、活動面）

3　自己評価結果（達成状況）【A：達成している　B：概ね達成している　C：あまり達成していない　D：達成していない】

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
学校運営	**○組織運営** ・管理職がリーダーシップを発揮し、大学・学部と一体となった学校運営を行う。	・校長・副校長・教務主任が常に全体を見据えた経営を心掛け、全職員の共通理解のもと教育活動を展開してきた。今年度は大学からの指導の下、職場の労働環境の改善をめざし、会議時間の適正化等を意識させ、効率化を図り、個々の時間を確保できる取り組みを進めた。教職員にも時間管理の意識が芽生えつつある。	B	・今後も管理職が、リーダーシップを発揮するとともに組織マネジメントが行える人材を育てる。また、行事の精選や事務処理の負担軽減等により、勤務時間の適正化につなげる。
	○学年・学級経営 ・学校教育目標から、学年及び学級の目標を定め、めざす子ども像に向かい子どもの姿を見取りながら計画的に教育を行う。	・本校の特徴である色別縦割り活動について色別組長（６年各担任）を中心に帰属意識を高めながら各行事に取り組んだ。 ・学年主任を中心に、常に学年で情報交換を行いながら共通理解を図り目標達成のためや課題を明確にして教育に取り組んだ。 ・学期ごと行事ごとに学年・学級経営を振り返り状況を確認しながら次の活動に生かすように努めた。	B	・学年・学級経営の振り返りの情報交換をする機会を増やし、より教職員間の共通理解を深める。
	○危機管理 **環境整備** ・児童にとって安全・安心な環境を整える。 **防災教育** ・実践的な態度や能力を育てる防災教育の推進を行う。 **健康・安全教育** ・生命を尊重する健康教育と安全教育の推進を行う。	・遊具及び教室の施設・備品について、全教員で定期的に安全点検や業者による定期点検を行い、適宜補修や危険回避措置を講じた。改修計画を立て具体的な整備を推進している。 ・防災教育担当教員を中心に計画的に防災訓練を実施し、児童の実践的防災能力を高めた。 １学期：引き渡し訓練・火災避難訓練 ２学期：不審者対応訓練・三附属合同地震避難訓練 ３学期：地震避難訓練 ・健康・安全については、栄養教諭、養護教諭を中心に担任の協力を得ながら、それぞれの立場から継続的に指導を行っている。 ・定期的にバス停、駅まで教員が同行しながら、指導を継続した。校内で廊下や階段を走っている児童について指導を行い、安全面への意識化を図った。	B	・幼小中合同の避難訓練をより現実を想定しての実践的なものにする。 ・廊下階段の歩き方や校舎内での過ごし方等、安全な学校生活の過ごし方の指導を強化する。
	○保護者との連携協力 ・学校教育目標の達成をめざし、保護者と学校の連携を進める。	・PTAの協力体制のノウハウや引き継ぎが確かなものになっており、創意工夫のある活動を推進している。 ・PTA役員を中心に様々な学校行事への支援や校内環境の充実など積極的に尽力してくださっている。	A	・保護者の負担軽減を考慮しつつ、さらに連携を深める。

3　分野・領域ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・自己評価結果及び改善の方策について概ね良い。 ・組織運営においては、管理職のリーダーシップとともに情報の共有化が大切である。職員朝礼等を利用して、情報共有を素早く確実にしてもらいたい。 ・教職員の負担軽減について、伝統ある行事の精選は難しいと思うがあれもこれもと取り組むのではなく、学校教育目標達成のために必要なことは何かをもう一度問い直して、絶対に必要なものだけに絞るという意識を共通理解して取り組むとよいのではないか。

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
教育・研究活動	**○教育活動** ・教育課程の改善や学習指導方法の工夫などにより確かな学力の形成をはかる。	・「学ぶ力を育む　～学ぶ力を育む学習文化の要因を探る～」のテーマのもと、前期授業研究会、後期授業研究会、研究発表会と、教師は自己の力量を高めながら児童の学力形成に尽力した。 ・CRT検査によって学力の全体的な傾向を把握することで、基礎的基本的な学力を充実する取り組みを続けている。全国学力学習状況調査では、国語・算数・理科の三教科すべてで全国平均を上回っている。また、国語・算数とも主として活用を見るB問題はかなり全国平均を上回ることができた。	B	・活用する力が高い児童がいる反面、学力の定着が十分ではない児童もいるため、基礎的・基本的な学力が身につくような学習活動を充実させる。 ・附属中学との授業交流や学力調査結果提供など連携を進める。	・改善の方策について概ね良い。 ・評価については、評価項目「教育活動」において、さまざまな教育活動に意欲的に取り組み、全国学力学習状況調査の結果にも表れているところからＡ評価でよいと考える。ただ、授業内容充実及び授業時数確保の観点から授業時間４５分の確保が望ましいのではないか。 ・子どもと教師が向き合える時間を十分に確保して、子ども理解を深めてもらいたい。そのためにもタイムマネジメントは大切である。 ・儀式や行事での開閉会式の子どもたちの聞く態度など、その場に応じた集中力がある姿勢も育成してもらいた。 ・研究に取り組む姿勢は素晴らしいが、研究発表会２日間終日開催は、教員にとって（ＰＴＡにとっても）大きな負担になっているのではないか。
	○子ども理解 ・子ども一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、心のきずなを深めるとともに、子どもが持っている良さや可能性を引き出し、それぞれの個性をより発揮できるよう指導する。	・多様な個性を持った子どもたちへ対応するために、附小っ子連絡会等で、生徒指導上の課題、学校生活面での課題等を共通理解するなどして、子ども理解に取り組んでいる。 ・様々な支援を要する子どもたちへの対応のため、スクールカウンセラーや大学の専門家の協力を得ながらよりよい発達を支援するための取組を継続的に行っている。	B	・校内の子ども理解に関する研修の充実を図る。 ・教師が一人一人の子どもと向き合える機会を計画的に持てるようにする。	
	○健康な体づくり ・子どもたちが抱える心身の健康課題に適切に対応し、主体的に食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた健康な生活を送るための基礎を培うことをめざす。	・体育では、運動文化の視点から児童の実態にあった教材づくりを行い、実践することで健康な体作りをめざした。また、杯間学校、臨海合宿、耐寒訓練マラソン大会等では、体力と共に強い意志力を育んだ。 ・家庭での生活習慣を適正に保つために保護者に対して保健だより、給食だよりによる啓発活動を推進するとともに、学校生活の中での安全意識を高めるために学級指導を繰り返し行った。	B	・自分の生活の中で自ら健康な体を作る意識を高めさせる。 ・基本的な生活習慣の確立のため、「早寝・早起き・朝ご飯」等、家庭への啓発活動を充実する。	
	○研究活動 **全国規模の研究発表会の開催等による研究成果の普及・啓発** ・附属学校の研究成果について、全国規模の普及・啓発を図る。 **研究開発学校制度等への応募** ・文部科学省による研究開発指定などを積極的に活用するため、積極的な応募を行う。	・本年度は、研究発表会を２日間の終日開催で行った。県外・県内から500名ほどの先生方に参加していただけた。 初日は、各教科公開授業及びテーマ別分科会を行うとともに西岡加名恵氏の講演会を行った。二日目は各教科の公開授業に加え未来デザインの公開授業と分科会を行うとともに嶋野道弘氏の講演会を行った。 ・地域への本校教育の還元活動として、年二回の教科別授業実践交流会を実施し、研究協議や情報公交換を行い、地域の学校の研究活動に貢献している。 ・平成 29 年度より平成 32 年度まで、4 年間の文部科学省主催「研究開発学校」の指定を受け、本年度は第２年次の研究に取り組んでいる。 **＜研究開発課題＞** 社会の一員として新たな問題を創造的に解決する能力を育むデザイン思考教育を実践する新総合領域「未来デザイン」の教育課程に関する研究開発	A	・今年度の取組から見えてきた課題をもとに新総合領域「未来デザイン」のカリキュラム修正を行うとともに子どもがどのように変容してきたか調査を行い、子どもの成長を探る。	

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
地域・他校種連携	**○開かれた学校** ・地域への貢献をめざし学校の教育的資源を生かす ・地域や社会とつながる教育をめざし教育活動を計画、実施する。	・小野市と兵庫教育大学との地域連携推進事業の「理科&科学の地域でのサイエンス祭」へ、本校教員が講師として参加した。 ・「未来デザイン」で地域社会とつながる活動を計画、実施した。 本年度はグループ別で地域社会のパートナーを募っての活動であったのでより地域とのつながりが広がった。 ・地域主催の陸上大会や駅伝大会等のスポーツ行事に積極的に参加していった。	B	・「未来デザイン」での活動が、子どもが地域社会とつながる実践となっているので、さらに発展充実をめざす。 ・スポーツ以外の地域行事への参加も模索していく。
	○大学及び附属間連携 ・附属学校運営会議のマネジメントのもと、大学・学部と一体となった附属学校園の連携を進める。 ・大学教員と附属学校教員が研究テーマを共有し、大学・学部内の人的物的資源の効率的活用を図る。 ・附属学校教員が研究実践の一環として大学・学部の授業を担当する。	・三附属連携推進協議会で、幼・小・中の継続性に着目したカリキュラムの策定に向けて、分科会ごとに取り組むことができた。 ・幼稚園や中学校の様々な行事への参加を教員に呼びかけて、交流の深化に努めた。附属中学校の教科授業研究会に各教科部が参加したり、幼稚園の生活発表会を参観したりするなどして連携を深めた。 ・各教科等において共同研究を積極的に進めている。研究発表会では、助言者として多くの大学教員に指導を請うことができた。 ・大学授業(リフレクション及び学部授業)を附属学校教員が担当した。 ・防災教育について大学と幼小中共同で、「理論と実践の融合」に関する共同研究活動を開始した。	B	・幼・小・中の継続性に着目したカリキュラムの策定を更に進める。 ・幼小中合同の避難訓練をさらに充実させなど三校園合同の行事を行う。 ・「大学教員と附属学校園教員との連携専門部会」の組織を積極的に活用する。 ・研究面だけでなく、学校で日常的に起きる諸問題や課題についても大学と連携して取り組むための組織づくりを模索する。
	○教育実習 ・大学の計画に基づき、実習生の資質や能力を高められるような実地教育を行う。	・国立教育大学の附属小学校としての教員養成の責務を教員に繰り返し説くと共に、大学から附属学校への教育実習校としての評価や期待を教員に周知して教員の意識向上を喚起しながら、実地教育の充実を図った。 ・初等基礎実習において、共同立案授業等の充実した取り組みが行えた。	B	・限られた時間の中で効果的な実習指導が行える方法を模索していく。

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・改善の方策について概ね良い。 ・評価項目「開かれた学校」については、「未来デザイン」の活動で、地域とのつながりが広がりつつあることは大変良いので、Ａ評価でよいと考える。 ・せっかく三校園が地理的に隣接しているのだから、幼稚園、中学校との連携をさらに充実させてもらいたい。（生徒指導上に関することや、学力も含めて）